

令和元年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第 1 分科会
忍野村立忍野小学校
校長 堀内 博文

「子どもたちの学びと育ちをつなぐ幼保小連携の取組」

～幼保小，行政，特別支援学校との連携の中で～

1 はじめに

本校は、富士山と忍野八海に象徴されるように豊かな自然環境に恵まれた地域にある。このような豊かな環境の中で、忍野中学校とともに一村一校の学校として、地域住民に大切にされ、地域住民の学校に対する関心が高い。学区は、内野地区、忍草地区といった昔からのコミュニティに加え、ファナックの従業員による新しいコミュニティにより構成されている。児童数 590 名（7 月現在）、学級数 22 学級（特別支援学級 3 学級を含む）である。今後さらに児童数の増加が見込まれている。

本年度もこれまでの良き歴史と伝統をさらに築き上げると共に、教職員が一丸となって諸課題の解決を図り、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むことをめざし、社会の変化に自ら対応できる心身ともに健康な児童の育成に努めている。学校教育目標を、「豊かな人間性と限りなき可能性を追求する忍野っ子」の育成とし、めざす子どもの姿を①生活者として自立した子ども②学習者として自立した子ども③みんなとなかよく活動する子ども④みんなのために働く子どもとして教育活動を積み重ねている。

本校への入学児童は、例年 9 割強が忍野村の忍野幼稚園，忍草保育所，内野保育所からの園児である。そのため，3 園と小学校との連携は非常に取りやすく，ネットワークも充実している。また，忍野村教育委員会の「忍野村アシスト連携協議会」（適正就学指導委員会）の研修・情報交換等の活動により，より具体的かつ適確に情報を共有できるメリットがある。この利点を活用して，新入児の就学がスムーズにいくように日頃から密に連携を行っている。また，入学を目前に控えた新入児と小学校 1 年生による交流会を通して，新入児が早く小学校に慣れるように活動も行っている。

2 幼保小連携の取組の目的

- ①幼保小で日頃から連携を組むことにより，小学校への入学に際してスムーズな接続をはかり，小 1 プロブレムの解消をするための基盤をつくる。
- ②忍野村アシスト連携協議会の活動により，小学校入学時における，一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育が実施できるように，委員が研修を重ねたり情報を共有したりする。この活動をもとに，小学校では受け入れ体制を検討して準備をする。
- ③新入児が，入学前に小学校での学習や生活体験をすることにより，小学校入学への期待や喜びがもてるように交流会を実施する。招待する 1 年生は，新入児と交流を深めることにより 2 年生へ進級する喜びや自覚の気持ちをもつようにする。
- ④学校と幼稚園・保育所における指導や活動について相互の目標や願いを共通理解し，幼児教育，初等教育の見通しをもった指導を進める。

3 連携の具体的な取組

- ①小学校1年生による生活科の学習に、幼稚園・保育所の新入児を招待して交流を図る。
- ②幼稚園・保育所の活動に対して、校庭や遊具を可能な限り開放して、新入児に小学校への関心や親しみを養う。
- ③忍野村アシスト連携協議会での活動により、各委員が新入児の情報を共有することで小学校入学までの準備期間に、より適切な支援体制を準備したり実際に支援が必要な新入児の幼稚園・保育所での様子を観察したりしている。

『子どもたちの交流活動を通して（保・幼・小の連携）』

「1年生はたのしいよの会」の実施について

①. ねらい

- ・新入児に学校の様子を紹介したり、交流したりする活動を通して、自分の成長を実感し、これからの生活に意欲をもてるようにする。 【小学校児童】
- ・1年生との交流を通して、小学校生活への期待感を高め、保育園・幼稚園から学校生活へのスタートが円滑にできるようにする。 【新入児】



②. 日 時

実施日	時間	招待する幼稚園保育所	活動学級
H31. 1. 22 (火)	10:00~11:00	内野保育所 23名	1-2教室
H31. 1. 23 (水)	10:00~11:00	忍野幼稚園 54名	くま組さんは1-1教室 ぞう組さんは1-4教室
H31. 1. 25 (金)	10:00~11:00	忍草保育所 27名	1-3教室

③. 場 所

1年教室、校内（学校案内で1Fのみ）

④. 内 容

新入児を学校に招待し、学校生活や学習の様子を紹介したり、一緒に遊んだりして交流を深める。

- (1) むかえる会
- (2) 学校の一日の紹介（生活、学習）
- (3) 一緒に遊ぶ
- (4) 学校案内
- (5) おわりの会



『幼保小，行政，特別支援教育センター校との連携を通して』
「忍野村アシスト連携協議会」の活動について

①. 目的 村内のネットワークの形成，研修，情報提供，相談支援システム等について検討し，もって特別支援教育の推進に資することを目的とする。

②. 内容

- (1) 村内のネットワークの形成に資すること
- (2) 研修，情報提供，相談に関する支援体制の構築に関すること
- (3) 個別の教育支援計画の促進に関すること
- (4) 特別支援教育コーディネーターとの連携及び資質向上の促進に関すること



③. 協議会日程

回	日時	内容
第1回	令和元年8月19日	・今年度の取組，テーマについて ・情報交換
第2回	令和2年2月4日	・今年度のまとめと次年度に向けての課題 ・情報交換

* 協議会による幼稚園・保育所の訪問の予定

忍草保育所 11/26 忍野幼稚園 12/4 内野保育所 12/9

* 新1学年の学級編制のための幼稚園・保育所の訪問の予定

3学期に必要な応じて実施

④. 委員

アドバイザー	ふじざくら支援学校	特別支援教育コーディネーター
教育関係者	忍野小学校	校長 特別支援教育担当 養護教諭
教育関係者	忍野中学校	校長 特別支援教育担当 養護教諭
福祉関係者	忍草保育所	所長 主任保育士
福祉関係者	内野保育所	所長 主任保育士
福祉関係者	忍野幼稚園	所長 主任保育士
福祉関係者	福祉保健課	課長 障害担当 保育所担当 保健師
児童館	福祉保健課	館長
教育関係者	教育委員会	教育長 課長 総務学校教育担当

⑤. 本年度の活動テーマ

テーマ「村内での連携，途切れない支援～確実な引継と就学後の継続支援～」

4. 成果と課題

(1) 子どもたちの交流活動を通して

- ① 新入児が小学校1年生との生活科の学習「1年生は楽しいよの会」の交流を通して、小学校生活の様子を知ることができ、小学校生活に対する興味関心が高まった。
- ② 入学前から小学校の生活や様子を知ることが、小学校生活に対する安心感を育むことにつながっている。
- ③ 新入児と小学校1年生が交流することで、入学してからの縦のつながり（2年生と入学生）をつくりやすくしている。
- ④ 小学校1年生にとっては、新入児と交流する中で「いろいろ教えてあげよう。」「優しくしてあげよう。」という思いやりの心が育つとともに、2年生に進級する自覚の高まりにつながっている。

※①②③は小1プロブレムの解消の基盤となっている。



(2) 幼保小、行政、特別支援教育センター校との連携を通して

- ① 行政の専門職（福祉，特別支援，保健師，児童館）や支援学校の特別支援教育コーディネーターと幼保小との連携体制による情報の共有は，継続したきめ細かな支援体制を構築するのにとっても有効である。
- ② 保育所・幼稚園での指導の成果や園児の実態を知ることが，新入児にたいしての指導法・支援法を考える際に大きな役割を果たす。
- ③ アシスト連携協議会の活動を通しての，各園での訪問観察が委員の協力体制のもとで組織的・効果的に行うことができ，入学を準備する小学校としてとても参考になっている。

(3) これからの連携に向けて

保育所・幼稚園と小学校の子どもたちの交流活動の継続は，幼保小のスムーズな接続に結びついている。保育所・幼稚園で培われてきた「生きる力」と新入児の可能性を見極め，適切なスタートラインに立って小学校生活を始めることができるように最大限の配慮をして教育計画を立てなければならない。

そのためには，より幼保小の連携を密にして「連携を生かしたスタートカリキュラム」を作成したい。また，アシスト連携協議会の活動を活用して，より組織的・継続的な支援体制を構築して連携を充実させていきたい。

